Interview

今をときめく まちのあの人に 会いに行く

vol 11

海田町にゆかりのある人を毎月ピックアップし、現在の活動や仕事から、海田町への思いまで深掘りしていきます。

3月号では、音楽の教員として長く勤めた後、海田町国際交流協会などさまざまな団体と関わりを持ち、まちづくりに貢献している沼 静香さんにお話を聞かせていただきました。

沼 静香さん

海田町国際交流協会 名誉会長

音楽と教育がもたらした 充実の日々と人とのつながり

広島大学の音楽科を卒業後、教員として一生懸命歩んできました。定年を迎えた後は1年ほどゆっくりしましたが、お声をかけていただいて海田中学校と海田西中学校で70歳過ぎまで外部の教員として音楽の授業を担当しました。部活動に関しては80歳過ぎまで関わっていたので、まさに音楽と教育に打ち込んだ人生です。

海田町と縁ができたのは昭和45年のこと。海田小学校への赴任がきっかけでした。その後は海田中学校でもお世話になり、吹奏楽部の顧問も務め、県の吹奏楽コンクールで賞を獲るほどまでに部活に熱を入れました。子どもたちのキラキラした目や、成長していく姿を間近で見られるのは、教員の醍醐味ですね。

現在、福祉センターで“サンフラワーズ”という童謡を歌う会の活動をしているのですが、生徒の保護者だった人の参加も多いんです。高齢者を対象にしているので、生徒の祖父母の人たちや、最近ではお父さんお母さんにもよくお会いします。「先生、お元気そうですね」「あの頃は本当にお世話になって」と話しかけていただけると、とてもうれしく温かな気持ちになります。

Profile

ぬま・しずか／音楽の教員として長く現場で尽力し、退職後も海田町国際交流協会ほか複数の団体と関わりを持ち、まちづくりに貢献。平成8年に同協会の理事を引き受け2年後には会長に。その後、22年間同協会を牽引する。御年87歳の現在は同協会の名誉会長と海田町文化スポーツ協会の顧問を務める。